

事業活動温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

1 事業者等の概要

氏名又は名称	日本発条株式会社					
代表者名	氏名	茅本 隆司	役職名	代表取締役社長		
主たる事務所の所在地	神奈川県横浜市金沢区福浦3-10					
主たる事業の分類	大分類	E 製造業				
	中分類	24 金属製品製造業				
主たる事業の概要	自動車用懸架ばね、バルブばね製造、自動車用シート製造					
制度に該当する要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第1号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	上記以外（任意提出）の事業者				
		基準年度実績	最終年度の目標	第一年度報告	第二年度報告	第三年度報告
原油換算エネルギー使用量	kl	16,646	16,147	15,985	18,646	17,862
エネルギー起源二酸化炭素排出量	t-CO ₂	31,433	30,490	30,201	35,180	33,525
その他ガス排出量合計	t-CO ₂	11		12	12	12
自動車の台数	台	31		25	25	22
自動車からの排気ガス合計	t-CO ₂	115				

2 基準年度、計画期間及び報告対象年度

基準年度	2019	年度	計画期間	2020	年度～	2022	年度
報告対象年度	2022	年度					

3 計画書（報告書）の公表方法等

<input type="checkbox"/>	ホームページ	日本発条株式会社 本社 技術本部安全環境部 平日9:00～16:00 Tel 045-786-7520
<input checked="" type="checkbox"/>	印刷物の閲覧	
<input type="checkbox"/>	その他	

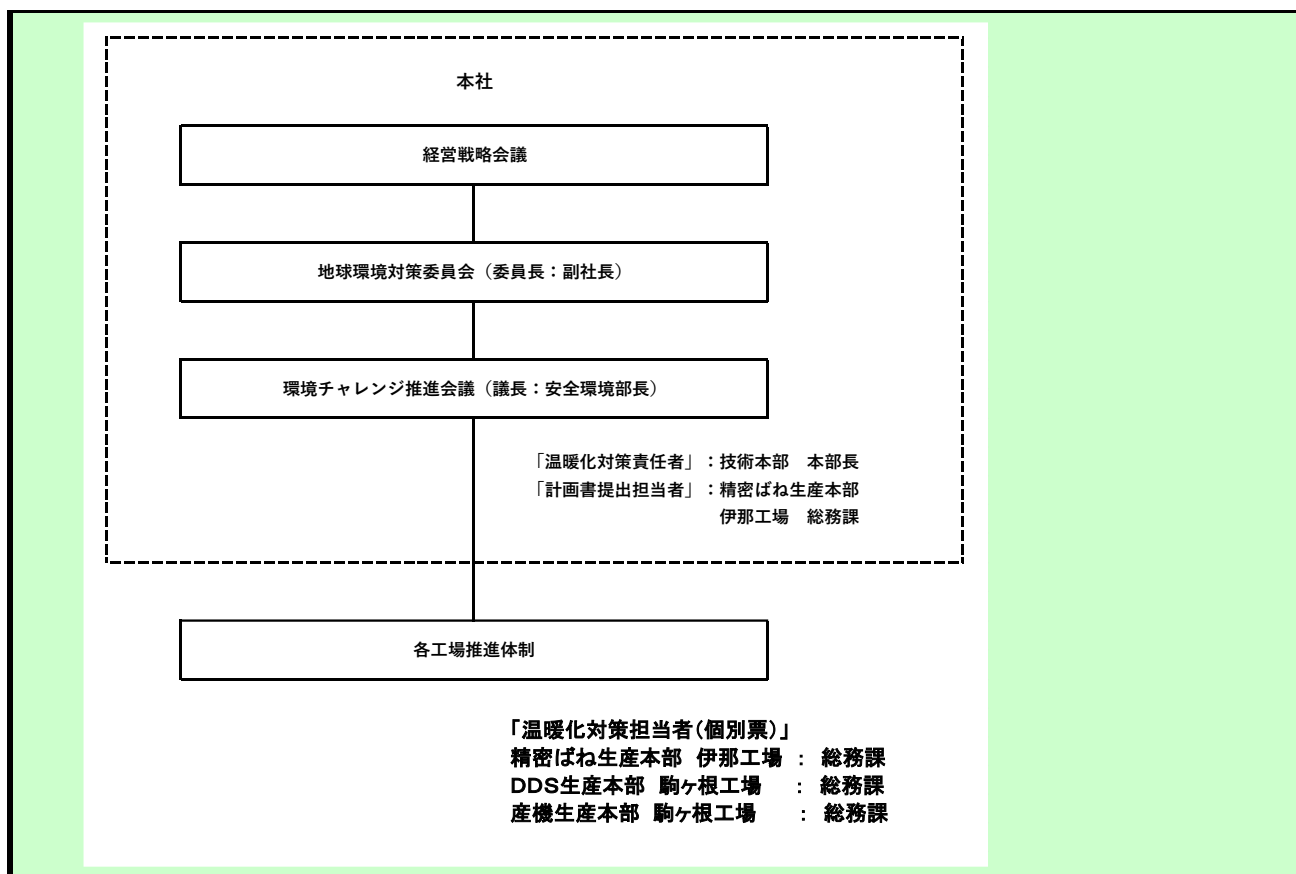
4 温室効果ガス排出抑制のための基本方針

2021年にニッパツグループ カーボンニュートラル宣言を行いました。

1. 創立100周年（2039年）にカーボンニュートラルを目指す
2. 2030年にCO2排出量2013年度比50%減を目指す

原単位を管理指標として、2019年度基準で年率1%削減する。

5の1 温室効果ガス排出抑制のための組織体制



5の2 温室効果ガス排出抑制のための会議体等の名称及び開催頻度

環境チャレンジ推進会議 (年4回開催)

様式1号
(総括票)

6の1 エネルギー起源二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	31,433	t-CO ₂	内製売上	4,800.24	単位	千万円
2019年度	調整後排出量	31,433	t-CO ₂	基準原単位	6.55	t-CO ₂ /	千万円
目標年度	目標排出量	30,490	t-CO ₂	目標原単位	6.35	t-CO ₂ /	千万円
2022年度	目標削減率	3.00	%	目標削減率	3.00	%	
目標設定に関する説明	工場毎に原単位の分母が異なる。目標設定として各工場を原単位の年率1%削減とする。						
第一年度	排出量	30,201	t-CO ₂	内製売上	5,435.88	単位	千万円
	削減率	3.91	%	原単位	5.56	t-CO ₂ /	千万円
2020年度	調整後排出量	30,201	t-CO ₂	原単位削減率	15.11	%	
	削減率	3.91	%				
排出量等の増減理由	自動車関連の売上が減少し、生産数量が減少したために排出量が減少した。但し、一部売上・生産増により排出量が増加した工場もある。						
第二年度	排出量	35,180	t-CO ₂	内製売上	6,690.55	単位	千万円
	削減率	-11.93	%	原単位	5.26	t-CO ₂ /	千万円
2021年度	調整後排出量	35,180	t-CO ₂	原単位削減率	19.69	%	
	削減率	-11.93	%				
排出量等の増減理由	半導体の生産減の影響で売上が減少し、生産数量も減少したために排出量は減少した。宮田工場が生産稼働を開始し、売上が増加した。						
第三年度	排出量	33,525	t-CO ₂	内製売上	6,443.49	単位	千万円
	削減率	-6.66	t-CO ₂	原単位	5.20	t-CO ₂ /	千万円
2022年度	調整後排出量	32,827	t-CO ₂	原単位削減率	20.61	%	
	削減率	-4.44	%				
目標の達成状況及び排出量の増減理由	基準年度と比較して、宮田工場の生産稼働が本格化した事で排出量は増加した。半導体生産調整の影響で一部の工場で売上の復調が見込めないが、宮田工場の本格稼働により全体では内製売上は増加した。						

様式1号
(総括票)

6の2 エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	11	t-CO ₂			単位	
2019年度	調整後排出量		t-CO ₂	基準原単位		t-CO ₂ /	
目標年度	目標排出量		t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /	
2022年度	目標削減率		%	目標削減率		%	
目標設定に関する説明							
第一年度	排出量	12	t-CO ₂			単位	
	削減率	-9.10	%	原単位		t-CO ₂ /	
2020年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位削減率		%	
	削減率		%				
排出量等の増減理由							
第二年度	排出量	12	t-CO ₂			単位	
	削減率	-9.10	%	原単位		t-CO ₂ /	
2021年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位削減率		%	
	削減率		%				
排出量等の増減理由							
第三年度	排出量	12	t-CO ₂			単位	
	削減率	-9.10	%	原単位		t-CO ₂ /	
2022年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位削減率		%	
	削減率		%				
目標の達成状況及び排出量の増減理由							

様式1号
(総括票)

6の3 自動車の使用に伴う二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	115	t-CO ₂			単位	
2019年度				基準原単位		t-CO ₂ /	
目標年度	目標排出量		t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /	
2022年度	目標削減率		%	目標削減率		%	
目標設定に関する説明							
第一年度	排出量		t-CO ₂			単位	
				原単位		t-CO ₂ /	
2020年度	削減率		%	原単位削減率		%	
排出量等の増減理由							
第二年度	排出量		t-CO ₂			単位	
				原単位		t-CO ₂ /	
2021年度	削減率		%	原単位削減率		%	
排出量等の増減理由							
第三年度	排出量		t-CO ₂			単位	
				原単位		t-CO ₂ /	
2022年度	削減率		%	原単位削減率		%	
目標の達成状況及び排出量の増減理由							

7 重点対策の実施状況

段階	番号	対策名称	基準年度	実施予定	第一年度	第二年度	第三年度	備考
I～II	I-1	燃料使用量等の定期的な把握						
	I-2	エコドライブの励行						
III	III-1	次世代自動車の導入計画						
IV	IV-1	次世代自動車の導入						

様式1号
(総括票)

8 排出抑制目標達成のための具体的な措置

番号	区分	区分番号	対策内容	計画		状況	
				実施予定年度	削減見込量 (t-CO ₂)	実施年度	推計削減量 (t-CO ₂)
1	エネ起	380752	高効率ランプの導入 (伊那工場)	2020～2022	2.5	2020～2022	6.1
2	エネ起	330299	エアコンの計画更新 (伊那工場)	2020～2022	1.1	2020～2022	18
3	エネ起	330299	大型ファン導入によるエアコン電力削減 (伊那工場)	2020～2022	200	2020～2022	0
4	エネ起	330299	クリーンルーム空調機更新 (DDS駒ヶ根工場)	2020	80	2020	0
5	エネ起	360799	エアコンプレッサーの高出力省エネタイプへの更新および集約による稼働台数削減 (DDS駒ヶ根工場)	2020～2021	256	2020～2021	286
6	エネ起	370701	洗浄機への省エネモード導入 (DDS駒ヶ根工場)	2020～2021	74	2020～2021	3
7	エネ起	329999	チラー更新 (DDS駒ヶ根工場)	2020	39	2020	47
8	エネ起	330201	マイクロコンタクタ空調機設定見直し (DDS駒ヶ根工場)			2021～2022	14
9	エネ起	360702	ブースターファン周波数変更 (DDS駒ヶ根工場)			2021～2022	85
10	エネ起	360703	エアコンプレッサー圧力減 (DDS駒ヶ根工場)			2021～2022	52

9 自然エネルギー源利用設備等の導入計画及び状況

機器の種類	単位	基準年度	導入計画	第一年度	第二年度	第三年度
太陽光発電装置 (DDS駒ヶ根工場)	kw	20	0	20	20	20
太陽光発電装置 (産機宮田工場)	kw	144	0	144	144	144

様式1号
(総括票)

10 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素の排出実績 (所、t-CO₂)

工場等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量
3,000k1以上	2	24,748	3	29,006	3	31,308	3	29,453
1,500k1以上 3,000k1未満	1	5,490	0	0	1	3,872	1	4,072
1,500k1未満	1	1,195	1	1,195	0	0	0	0
合計	4	31,433	4	30,201	4	35,180	4	33,525

11 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出実績 (t-CO₂)

ガスの種類	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
非エネルギー起源 CO ₂				
CH ₄	9	10	10	10
N ₂ O	2	2	2	2
HFC				
PFC				
SF ₆				
NF ₃				
合計	11	12	12	12

12 次世代車使用台数等の導入状況 (台)

自動車種別	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
プラグイン・ハイブリッド自動車				
電気自動車				
燃料電池自動車				
クリーンディーゼル自動車			1	1
その他 (ハイブリッド等)	2	1	2	4
合計	2	1	3	5
自動車総数	31	25	25	22
次世代車導入割合	6.5	4	12	22.7

様式1号
(総括票)

1.3 交通対策状況

区分	実施内容
公共交通機関の利用促進	特になし
自転車の利用促進	特になし
来客者の交通対策	特になし
物流の合理化	<ul style="list-style-type: none"> ・トンキロ管理の実施（伊那工場） ・社内目標に向けて活動（DDS駒ヶ根工場） ・外注加工品のまとめ出荷によるトラック輸送の削減（産機駒ヶ根工場）

1.4 環境配慮活動状況

環境配慮活動	活動内容の詳細		
	実施内容		実施年度
<input type="checkbox"/> SDGs	長野県SDGs登録制度へ登録している		
<input checked="" type="checkbox"/> 環境マネジメントシステム	名称	ISO14001：2015年度版	伊那工場H11年 DDS駒ヶ根工場H12年 産機駒ヶ根工場H10年
<input type="checkbox"/> TCFD提言	気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）支持を表明している		
<input type="checkbox"/> グリーンボンド	グリーンボンドを発行している		
<input type="checkbox"/> ESG投資	ESG対話プラットフォームに登録している		
<input type="checkbox"/> SBT	SBTを策定済、またはコミットしている		
<input type="checkbox"/> RE100	<input type="checkbox"/>	RE100にコミットしている	
	<input type="checkbox"/>	再エネ100宣言RE Actionへ参加している	
<input type="checkbox"/> その他			

1.5 自由記載欄

<p>DDS駒ヶ根工場： 省エネ推進委員会（3回/年）、省エネワーキンググループ（1回/月）の開催 エネルギー見える化の推進</p> <p>産機駒ヶ根工場： 灯油ボイラーの電化トライと灯油暖房の電気エアコン化を実施。</p>
--